



寛剛正  
厚健大

# 関東 あまたか

No. 50

発行者 松野 明久  
発行所 関東あまたか会

事務局 E-Mail  
akimatsuno@mac.com

## 故郷を思い、「絆」を思う

関東あまたか会会長 松野 明久（1975年卒・高27）



1月1日より第12代会長に就任いたしました。改めてご挨拶申し上げます。私は1956年（昭和31年）高浜生まれで、父の転勤に伴い五和町御領に移り、御領小、五和東中に通いました。高校卒業後は東京外語大（インドネシア語学科）に進み、大

阪外語大に就職。大学合併により大阪大に移り、2022年3月、定年（65歳）で退職しました。その後は東京住まいです。

外国研究に明け暮れた39年の大学教員生活でしたが、天草はいつも心の中にありました。しかし、退職後「帰らんいざ」というわけにも行かず、今なお東京と大阪を頻りに往復し、忙しい日々を送っています。そのため、どれだけ同窓会のお役に立てるか心もとないところではありますが、約1,300人の会員を擁する関東あまたか会を継承・発展させるために力を尽くしたいという思いでおります。

役員一同、母校を通じた絆を一層深めていけるよう、活動を充実させていきたいと思っています。

## 近況報告、節目の年を迎え

熊本県立天草高等学校 校長 岩崎 毅



関東あまたか会の皆様におかれましては、御清祥のこととお喜び申し上げます。関東あまたか会会報第50号の発行につきましても重ねてお喜び申し上げます。また、平素から本校の教育活動に対しまして、御理解、御支援を賜り心よりお礼申し上げます。

いて3名が九州大会へ出場するなどの活躍ぶりでした。

国際交流においては、韓国土坪（トピョン）高校との訪問交流が11年目を迎えました。7月の土坪高校らの訪問団の受け入れ、10月の本校から土坪高校への訪問団の派遣など、相互交流により両校の友情と学びは着実に深まっています。またSSH研修としては、8月にシンガポールの南洋理工大学での研究発表や現地研修、12月に台湾の静宜大学と国立中興高級中学での研修や国際交流など、天高ならではのグローバルな体験活動を展開しています。とりわけ台湾研修での訪問では、これまで連携協定を結んでいた静宜大学に加え、国立中興高級中学と本校との3団体の友好協定を締結する運びとなりました。協定締結当日は、台湾の新聞やテレビによる取材を受けることとなり、現地で大きな話題として報道していただきました。協定締結を機に、国際交流をとおして、今後益々主体性と豊かな感性とコミュニケーション能力を持った人材の育成にも力を入れていきたいと考えています。

2026年を迎え、今年是天高創立130周年の記念式典も開催予定です。大きな節目となる本年、学生の本分である学習を軸足としながら、学校行事、部活動、国際交流、ボランティアをはじめとする地域貢献など、天草高校だからこそできる様々な取組の充実を図っていきます。3年生は、いよいよ巣立ちの時を迎えます。巣立った雛鳥が大きく翼を広げ、皆様のもとにも辿り着くこともあろうかと思えます。その際は、どうか温かく、そして場合によっては愛情を持って厳しく御薫陶いただきますようお願いいたします。

終わりにになりましたが、関東あまたか会のますますの発展を祈念申し上げます。



早速ではありませんが、学校の近況報告からお知らせしたいと思えます。

部活動での生徒の代表的な活躍としては、科学部の「第44回豊かな海づくり大会」の漁業・環境保全部門における農林水産大臣賞受賞が光りました。これは、科学部独自のアマモ場の再生の取組や、アマモ場所造成に関する天草地域との共同研究等、それらの継続した取組について高く評価され、同部門における高校生の受賞は全国初となりました。大会前日のレセプションでは、参加生徒に対して、天皇皇后両陛下より天草についての思い出や活動についてのお尋ねなど直接のお声掛けをいただいたと、大会後に誇らしい報告を受けました。この他にも生徒理科研究発表会において、御所浦島の二枚貝（スフェノセラムス）化石遺構についての研究が最優秀賞を受賞し、九州大会出場を果たすなどの活躍もありました。さらに、吹奏楽部の生徒がJBA ソロコンテストで1名が県代表に選出され、九州大会への出場権を獲得しています。一方、体育系の部活動においては、男女ソフトボール部が、熊本県の新人戦においてそれぞれ3位入賞を果たしたほか、水泳部が熊本県の新人戦で男子50メートル平泳ぎ優勝をはじめ計5人が上位入賞を果たし、九州大会への出場、さらには陸上競技部が男女の棒高跳びにお

# 令和7年度総会・友好の集い

桑原洋一（1975年卒・高27）

11月1日（土）、スクワール麴町において「創立42周年・令和7年度第37回関東あまたか会総会・友好の集い」を開催しました。出席者は76名。高2回生から高65回生まで幅広い年齢層の同窓生が集まりました。

総会開会に先立ち、松野事務局長の司会の下、物故会員32名へ黙祷を捧げました。物故者の中には関東あまたか会を支えていただいた松尾和幸会長が含まれており、改めてご冥福をお祈りいたします。

総会ではまず次期会長に松野明久事務局長（高27）を選出しました。新会長挨拶に続いて来賓の祝辞を天草高等学校の岩寄毅校長先生（高38）から頂戴し、さらに来賓5名、会友2名をご紹介します、ご挨拶をいただきました。岩寄校長先生からは、現在の天草の現状やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に選ばれた高校としての研究活動の取り組み、生徒たちの活動の状況や成果などスライドを活用しながら紹介していただきました。会務・会計報告と役員・学年幹事の紹介、記念写真の撮影が終わると、次はいよいよ友好の集いです。

友好の集いの司会は、星野悦子副会長（高18）と吉村いつみさん（高25）がつとめました。松尾弘美事務局長次長（高15）の乾杯の音頭で幕を開けました。まず、卒寿、米寿、傘寿、喜寿、古希を迎えられた方々を紹介し、皆さまには紅白饅頭が贈呈されました。今回の集いにはポニーシャックスで活動されており、90歳でソロデビューを果たされた玉田元康さん（高5）も出席され、デビュー曲である「男たちの子守歌」を披露していただきました。深みのある低音でしっかりと歌われ、うっとりとした耳を傾けるひとときとなりました。また、用意されたCDも完売し、玉田さんから感謝のことばをいただきました。

次にかつて天高で国語を教えておられた田口孝雄先生のご著書（単著と共著）2冊が紹介されました（3ページ下を参照）。



母校の現状を話す岩寄毅校長



玉田元康さん「男たちの子守歌」

自己紹介コーナーは全員がマイクをもって一言ずつ述べる時間です。各テーブルごとにステージに上り、それぞれ現況や会に対する思いを語っていただきました。自己紹介が終わると、音楽に合わせて大きな輪を作り「牛深ハイヤ節」を踊りたかったのですが、指導的に踊れる人がいなかったこともあり誰もリードできなかったので、天領音頭で「炭坑節」を踊りました。牛深ハイヤ節は事前に練習して踊れる人を準備しておくことが今後の課題となりました。最後は天草を思いながら「ふるさと」と校歌を4番まで斉唱しました。力強い校歌の歌詞が会場に響き渡りました。また毎回人気の天草物産販売コーナーは今年も賑わいを見せ、完売となりました。

終了時間が予定時刻より20分近く延びましたが、まだまだ話足りない人たちのため、会場内に有料のコーヒーコーナーを準備しました。30分程度の時間でしたが、こちらも結構参加いただき賑わいました。

私は今回初めてお手伝いをしますが、役員のみなさんは、何ヶ月も前から会場との交渉、来賓、会友との連絡調整、出席者の確認、物産品の発注、名札用意、テーブル配置、進行要領など、それぞれ分担しながら準備されました。当日も早くから、受付配置、会場設営、資料の配付、物産販売コーナーの準備など、短い時間での準備でしたが、来年もまた来ますという感想もいただき、参加したみなさんが、笑顔でお帰りになったことがとても印象に残りました。

写真提供・近藤賢一（1963年卒・高15）



# 総会・友好の集いの感想

## ◆山下 さゆり (2005年卒・高57)

今回ご縁があって初めて参加させていただきました。天高を卒業し関東で活躍されている皆さまが毎年これほど多く集われていることにまず驚きました。私は社会人になって上京しましたが、どこかアウェー感を抱えつつ奮闘してきた日々の中で、東京にいなながら「ホーム」を感じられたのはこれが初めてだったかもしれません。天草出身、さらに天高出身ともなれば、自然と親近感が湧き、話も弾むものだと実感しました。皆さまの近況やこれまでの歩み、天草への思いなど、さまざまなお話を伺うことができ、大変貴重な経験でした。加えて、現校長先生のプレゼンテーションを通じて母校天高の今について知り、思いを馳せたことも、感慨深い時間となりました。

東京で暮らす年数が天草で生まれ育った年数を追い越しそうなこのタイミングで、世代を超えての交流ができた今回の集いは、母校を通じたご縁の大切さや母校への誇りを改めて感じる非常に有意義な機会となりました。ありがとうございました。

## ◆藤田 和治 (1961年卒・定時12)

今回初めて関東あまたか会総会・友好の集いに参加させていただきました。高12の山田さんと同学年でした。今回定時制卒業生は1名なので心配でしたが、西川さん、岩崎さんと同じテーブル席に入れていただきました。皆様とても明るく楽しい方たちでお話している内に気楽にどんどん対話ができました。役員の方のご配慮に感謝します。楽しい時間が過ぎてしまい、何でもっと早く、せめて10年前にこんな素晴らしい友好の集いに参加しなかったかと思ったのが第一の印象でした。今回事務局の吉村さんの勧めのおかげで参加できて本当に良かったと思います。訃報を見ると30名以上の方々がお亡くなりになり、心が痛みました。どうか来年も健康で有りますように神様にお祈りしました。今年も健康第一に生活して、来年も元氣な姿で友好の集いに参加して歌い、踊り、たくさんの方とお話ししてまた最高の1日を思う存分に楽しみたいと思います。幹事の皆さま、ありがとうございます。

## ◆宮崎 勝洋 (1961年卒・高13)

4年ぶりに参加し、高校時代の同級生1人、中学校の先輩・後輩4人に会うことができ、楽しい1日を過ごしました。食事で出た助六寿司がおいしく、コーヒーを飲みながらの二次会も楽しみました。その後の数日は自然と校歌が出て、口ずさんでいました。物産展はいいですね。とくに塩餡餅はうまかった!

## <天草物販コーナーをお手伝いして>

## ◆桑原 洋一 (1975年卒・高27)

物産コーナーでは、手作り団子、塩あんもち、乾燥わかめ、あおさ、天然塩などを販売しました。商品は当日に到着するため、販売を担当した平石水利さん(高16)、倉田蕃造さん(高16)を中心に値付け、陳列と短い時間で準備をします。販売を開始すると故郷の味を求めて来場者の多くの方が売り場に来て買い求められました。販売担当の皆さんは、対面で現金のやり取りをすることもあって、同窓の皆さんと楽しく触れ合うというより緊張感をもって対応されていました。私も途中から手伝いました。要領が悪くて迷惑をかけたかもしれませんが、購入していただいた皆さんの笑顔がとても印象に残りました。

私は、イソップ製菓の南蛮羊羹が好きです。先日、天草に帰省した際も南蛮羊羹が欲しくて何軒もお店を回りましたがどこにも売ってなく、志柿のイソップ製菓まで買いに行きましたがお休み。最後にとはいえず近くのお土産屋さんでやっと購入することができました。店主に聞くと、最近つくれる人が減って生産量も減らしているみたいと言っていました。銀座数寄屋橋の熊本館にも置いていないので、来年はぜひ物産コーナーで販売してほしいものです。



近藤睦枝さん(高2)、岩崎良昭さん(高7)ご夫婦

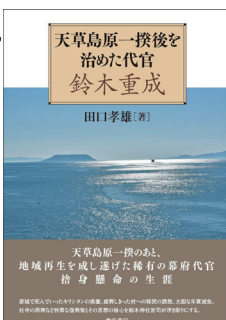


藤田和治さん(定12)、西川軍一さん(高10)、山田清さん(高12)



天領音頭で炭坑節を踊った

## 本の紹介



- 田口孝雄『天草島原一揆後を治めた代官 鈴木重成』弦書房、2019年  
天草がもっとも苦しかった時代からどのように脱却し復興をとげてきたか。——もと天高教諭で鈴木神社宮司の著者が、限りない天草への愛と鈴木三公への敬慕をもとに、深い内容を話し言葉で親しく綴った名著。
- 五色のペンの会『森の中の象』弦書房、2025年  
かつて天高で教鞭をとった先生方によるリレーエッセイ集。コロナ禍、地震、水禍……。人と人との交流が希薄困難になってゆく世にあって、なおも育みつづけた共感の静かな輪。心潤う名筆の数々が味わえる。

# 音楽と生きる

## ～関東あまたか会音楽家列伝

昨年、ニューヨークを拠点とする世界的なマリimba奏者ミカストルツマンさん(天高卒業・吹奏楽部)の東京公演を聴いた。太陽のエネルギーを感じさせる圧倒的なマリimbaの演奏で思った。「ひょっとしてこれは天草のDNA?」

天草と音楽 — そこには一体何があるのか。そう思って関東を拠点に音楽分野で活動する同窓生たちに音楽への思いを聞いた。音楽は人、そして人生。だとすれば、同窓生たちが奏でる音楽にも天草の光や色、その記憶が深く刻まれているのではないか。(インタビューとまとめ・松野明久)

### 新しい表現の境地へ♪

90歳でソロデビューしたポニージャックスの玉田元康さん(1953年卒・高5)は、姿勢正しく、若々しい声で歌う。豊かな低音はさすがだ。総会・友好の集いで「男たちの子守歌」は満場の喝采を浴びた。4人男性コーラスグループとしてともに時代を風靡したダークダックス、デューク・エイセスはすでに解散。ポニージャックスだけが吉田秀行さんとのデュオで続いている。「70歳まで水泳をしていたからね。肺活量には自信があるんだ」という。



キングレコード

満州にいた子ども時代、母がレコードを集めていた。玉田さんは早稲田大学入学式の日、グリークラブに入部。変声期に声がぐっと低くなり、自分はバスだとわかっていた。

それにしても、あのやさしく心地良いポニー・サウンドはどうやって生まれたのか。最初はそうでもなく「テナーだった西脇君はオペラのアリアとか歌い上げるのが得意で、最初のリサイタルではイタリア民謡を歌っていた」という。ポニー・サウンドは自然にできあがった。結成4年目にレコード大賞童謡賞をとって「童謡のポニージャックス」という評価も確立した。

それが今回はソロデビュー。それまでも一人で歌うことはあったが、レコーディングは初めてだ。一人で旋律を歌うので、表現の幅が広がった。90歳を越えての新しい境地への挑戦となった。

### 心に残った「歌い続けなさい」♪

長崎市生まれ。小学1年時、爆心地から2.4kmで被爆した藤枝純子さん(旧姓大塚・1957年卒・高9)は、父の故郷、下浦に避難した。耳の病気を患い、長崎の祖母に預けられて治療を続けたが、治らず左耳の鼓膜を喪失。それでもNHK長崎放送局で歌ったり、中学時代は文化祭で独唱した。独唱をやるよう言った先生に「なぜ私が?」と聞くと、「あなたの声の質は特別だから」と言われた。

天高では音楽部。長崎県立短大英文科に進み、音楽部に入る。合唱の指導者は「島原の子守歌」の採譜者、寺崎良平氏。NHK合唱団(後の長崎混声合唱団)に入り、短大卒業後も続けた。

しかし、本格的な音楽への思いは断ちがたく、歌の勉強のために東京に出よう! やらないで後悔するよりやって後悔しようと、昼間は仕事をしながら東京声専音楽学校(後の昭和音楽大学)の夜学に通った。昼夜忙しく、節約のためもあって、ケチャップで味付けしただけのマカロニをよく食べた。研究科(オペラ)へ進んで、バルカント唱法を学んだ。声質はドラマティックソプラノ。イタリア人歌手と公演旅行もした。好きな歌は「トスカ」のアリア「歌に生き、恋に生き」だという。

ニューヨークの友だちを訪ねた時ある著名な声楽家のレッスンを受けることになった。まったく用意しておらず「サッチャン」(童謡)を歌ったら、先生から「どんなところにも、どんなときでも、歌い続けなさい」と言われた。そのことばが心に残る。

その後音楽の道は諦めて保育士になった。しかし、音楽は保育の仕事にとっても役立った。保育はやりがいがあった。

60歳を過ぎてから母校(昭和音楽大学)でイタリア語を習い始めた。歌詞の深い意味を知ると改めて感動する。今年88歳。イタリア語と地元小学校の花壇の世話で忙しい日々が続く。



### フランス歌曲に魅せられて♪

櫻井美和子さん(旧姓酒井・1965年卒・高17)は、昨年のチャリティコンサートで三善晃作曲『子供の歌』より栗の実、貝がらのうた、ラヴェル作曲『五つのギリシャ民謡』等を歌った。このコンサートは毎年有志のグループが行っているもので昨年は46回目。収益はユニセフや国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)等に寄付している。ソロ・アルバム『こころの散歩道「ピアノシモの秋」』(2010年)は、美しい記憶を叙情豊かに歌う。



天高音楽部出身で東京音楽大学卒・同研究科修了。多くの後進を育てた声楽家で東京藝術大学教授だった中村浩子氏との出会いが櫻井さんの音楽人生を決めた。フランス歌曲を選んだのも中村氏の専門だったからだ。R・アーンの「もしも私の詩に翼があったら」など、「フランス歌曲は詩とメロディーの融合

NHKのオペラ「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役でデビューし、いくつものオペラに出演した。関西日仏コンクールでフランス総領事賞を受賞。日本演奏連盟、日本フォーレ協会、二期会各会員。

それにしても若々しい。聞くと、ジムに通っておられ「スクワットなんかは体幹を維持するのにいいのよ」との返事。美しく歌われる裏にそんな努力があったとは！天草の思い出は「のびのびと」育ててもらったこと。繊細でのびやかな歌声にも明るい陽差しがさしている。アルバムにある「日向の匂い」はそうしたおだやかな幸福感に満ちている。

### 座右の銘は「歌は心」♪

歌手見咲えつ子こと星野悦子さん(旧姓荒木・1966年卒・高18)は「ラストダンスは私に」が一番好きだという。それも客の間に入って歌うのがいい。レパートリーは演歌だけではない。シャンソンも歌う。デビュー曲「ジャット節」を聞けばそのクリアーな高音はコーラスで磨かれたソプラノだとわかる。



キングレコード

「ジャット節」の作詞者は天草キリシタン館の館長だった宗像まさとし(政敏)氏、作曲者は天高の音楽教師だった橋本亜三生(朝雄)氏、編曲は星野知信氏。橋本先生は新任時それまで「不良」の楽器だとして禁止されていたエレキギターを職員会議で認めさせたという。橋本先生に声をかけられ星野さんは「ジャット節」を歌うことに。

歌を歌って生きようと決意したのは38歳の時。最初は天草に住み、事務所にも所属せず、各地のホテルやクラブでのショーも引き受けた。5年後に拠点を東京に移す。客が一人ということもあった。今日はやめましようと言われたが、星野さんはやると言い、一人のために歌った。一人でショーをして回るとなると、カセットや衣装を詰め込んだ重たいトランクをもって移動することになる。大変ではあったが、歌うことは楽しかった。

座右の銘は「歌は心」。詩が大事だと思う。星野さんは必ず天草出身だと自己紹介する。天草の人たちの素朴な人間性や暖かさが伝わればよいと思って歌っている。

### 一途に貫く歌の道 ♪

原田悠里(本名よしみ)さんは子どもの頃美空ひばりにあこがれ、「港町十三番地」などを歌っていた。そして歌手になる夢を胸に秘めたまま音楽教師になった。その後1982年に北島音楽事務所からデビュー。

天高卒業後、鹿児島大学教育学部音楽科に進み声楽を専攻。ソプラノの才を見いだされ、オペラ「魔笛」(モーツァルト)では「夜の女王」を演じた(そのアリアは超高音で有名)。歌への思いは大学で花開いたと、原田さんは言う。

音楽教師を続けるかたわら、新宿コマ劇場でショーを見た北島三郎氏にデモテープを送った「一緒にやってみるかい」という返事。しかし、演歌は声楽ではタブーのこぶしや地声を使う。間の取り方も独特だ。まずそこを訓練する必要があった。その後二葉百合子氏の指導を受け、歌謡浪曲まで世界を広げた。



キングレコード

NHK紅白に3年連続出場。本渡市役所(当時)に垂れ幕がかけられた時はさすがにうれしかった。

今では、美空ひばりへのあこがれから声楽を経て演歌歌手になり、歌謡浪曲もやった自分を「これが原田悠里なんだ」と思う。レパートリーの中に「ノクターン～黎明」(ショパン)や「千の風になって」、「特攻の母～ホテル」も入る。2冊の著書も執筆。『ひばりとカラス～世紀の歌姫は出会っていた?』(1997年)と『夢ひとすじに』(2001年)。前者は、「なぜクラシックから演歌へ?」と聞かれることに対する答えとして、美空ひばりとマリア・カラスの生涯と音楽性を比較して書いたユニークな本。そこから原田さんの歌に対するスタンスが浮かび上がる。

原田さんは、天草で人間としての自分が確立したと語る。働き者で、一途で、貫くところがあるという。ただ、本人曰く「根は楽天的」。ラジオのパーソナリティもこなし、軽妙なトークはコンサートを盛り上げる。その「まっすぐさ」が多くのファンを引きつけている。

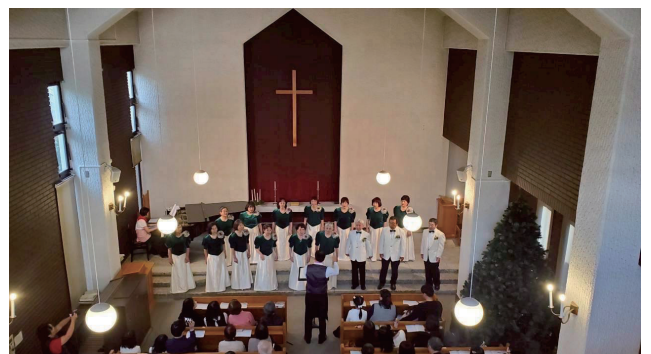
### 音楽は心の友 ♪

28歳で東京に出てきて子育てで大変だった時期、それまでやってきたフルートが吹けなくなったという江頭真喜子さん(旧姓柿久・1976年卒・高28)。音が逃げていくように感じたという。

本渡南小で合奏部に所属。6年生からフルートを始め、天高ではブラスバンド部。3年の時、犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクールで入賞。その後、熊本音楽短大管楽コース・フルート専攻卒業、同研究科修了。

学生時代に伴奏をしてくれた友人とばったり再会したことでまたフルートが吹けるようになった。サロン・コンサートをやり、吹奏楽団にも入った。その時のメンバーでフルート四重奏、五重奏を時々やっている。

天高のブラスバンド部は心地よかった。練習をつらいと思う



ことはなかった。顧問の橋本朝雄先生の家で夏合宿し、昼過ぎまで練習した後、カレーを作ったり、花火や肝試し、トランプ大会をした。コンクールで入賞した時、橋本先生は「フルートを続けてきてよかったでしょう」と言ってくれた。

天草に帰った時は施設を慰問し演奏している。「水戸黄門」や「川の流れるように」などもリクエストがあれば応じている。

4年前から熊本時代の同級生に誘われて「コール・ペーレン」で歌っている。もとは熊本県人会から生まれた合唱団で、今でも熊本出身者が多い。昨年12月ファミリーコンサート(5頁写真。文京区・同仁キリスト教会にて)で歌ったアンコール曲「群青」はとくに好きな合唱曲だ。福島県南相馬市の小高中学校の小田美樹先生が、3.11でちりちりになった生徒たちのことばを紡ぎ作曲した合唱曲だ。江頭さんにとって音楽は心の友。一番の喜びだ。好きな曲はG・フォーレの「シチリアーノ」など。音楽をやる後輩にも「ぜひ続けてほしい」と言いたい。

### 「喜び」をパワフルに奏でるピアノ ♪

昨年10月のピアノデュオ・リサイタルでは2台のピアノから放たれるエネルギーがホールを包みこんだ。鳥羽瀬宗一郎さん(1990年卒・高42)は国立音楽大学とウィーン国立音楽大学ピアノ・コンサート科を卒業し、ヨーロッパでのコンクールに入賞して帰国。現在洗足学園音楽大学教授。リサイタルの共演者は同僚の塩塚美知子さんだ。



華々しい経歴の影には想像を絶する苦しみがあった。今でもピアノを弾けなくなった病の後遺症が残る。高校1年で運命を左右するピアノ教師に出会い、その冬音大受験を決意。本格的にピアノを始めたのは高校からだ。その遅いスタートをカバーしようと毎日5時間、休日は8時間練習した。

しかし、2002年帰国記念デビューコンサートの直後から、演奏中に指が巻き込んでしまうジストニアという病気にみまわれ、演奏を休止。ジストニアは同じ動作の繰り返しでおきる。ピアニストの職業病とも言われる。手術したが完治せず、2010年故障を抱えたまま演奏活動を再開した。

「絶望の一手手前まで行きました」。ジストニアになる若者はたくさんいて、有効な治療法がなく、精神的にまいってピアノを諦めてしまう。鳥羽瀬さんの場合「こういう状態で奏でられる音楽が自分の音楽なんだ」と思えるようになって再び弾けるようになった。「病気を経て前向きな人生観になりました。今はブラームスやシューベルトが好き。彼らの音楽の深さは若者には難しい。今の私にはずっと入ってきます」。

天草は自然が豊かで、海の匂い、山、空の匂いを感じる。そ

れらが自分が奏でたいと思う響きに繋がっている。そう天草への想いを鳥羽瀬さんは語る。天草の人びとに育ててもらったと思っているし、時々天草に帰ってスクール・コンサートを行っている。「若い人には夢を追い続けてもらいたい。夢がかなう、かなわないは別。追い続けることの大切さとたいへんさを経験してもらいたい。」力を込めて語ることばには説得力がある。

### トロンボーンのいろいろな楽しさ ♪

トロンボーン奏者としてオーケストラとの共演、管楽アンサンブル、ミュージカル、スタジオレコーディングと幅広く活躍する辻田雅史さん(2001年卒・高53)は、若い頃には知らなかった演奏活動の幅の広さが楽しいと言う。ジャンルもクラシック、ジャズ、映画音楽(サウンドトラック)、ゲーム音楽と幅広い。最近の参加作品としては東宝版ミュージカル「エリザベート」や映画「すずめの戸締まり」などがある。吹奏楽指導も行っており、コンセル・リベルテ・オーケストラ・ドゥアルモニーの常任指揮者を務める。



本渡中の音楽教師で吹奏楽部を指導していた父とピアノ教師の母という家庭で育ち、本渡南小5年の時に「君は男の子だから」という理由でトロンボーンをもたされた。国立音楽大学を卒業し、桐朋学園研究科を修了した。

トロンボーンの音色は深みがあって、あたたかいハーモニーをつくる。吹奏楽はみんなと時間を共有し、同じものを創り上げようという一体感がある。オーケストラとの共演ではブレンドしてどういう音にするか、コミュニケーションが大切。デュエットでは相手のメロディーにどう合わせるか、ニュアンスが大切。ソロで演奏するときは旋律をいかにダイナミックに表現するかが大切だ。それぞれ違った楽しさがある。

天草の吹奏楽は全国的にみてもレベルが高い。ミカ・ストルツマンさんが恩師と仰ぐ木田匡英先生が本渡中吹奏楽部の顧問となり、天草の吹奏楽の基礎を築いた。「やりたいことに向かって力いっぱい楽しみながらがんばってほしい」と後輩にメッセージを送る。現在、トロンボーン演奏を続けるかたわら、東京音楽大学指揮研修講座に在籍して研鑽中だ。

### 「溶け合う」音楽をめざして ♪

20歳でDEZOLVEというバンドを結成し、7年間で6枚のアルバムをリリース。27歳でソロ・アルバムを発表。精力的に活動を続けるピアニスト・キーボード奏者の友田ジュンさん(2013年卒・高65)は、ジャンルにこだわらず、さまざまな個性が融合する音楽をめざす。

バンドでベースをやっていた父の影響もあって幼い頃にピアノやエレクトーンを習い始めた。天高時代は父に連れられ社会人バンドでキーボードを弾いた。音楽専門学校時代に仲間とDEZOLVEを結成。次々とアルバムを出す高い生産性の秘密は4人のメンバー全員が作曲できるところにある。しかも、自分以外の楽器のパートもすべて書くという、驚くべき集団だ。



疾走感のあるDEZOLVEに比べ、ソロ・アルバムは静かで内省的だ。「若い頃に始めたこともあってDEZOLVEの音楽はエネルギッシュでアグレッシブ」だが、ソロ・アルバムは「もう一つの自分、アコースティックな面を出したかった」という。自分の中にある2つの側面なのだ。

最近、倉木麻衣さんのバックで演奏することも多く、中国にも出かけた。国によって違う熱狂、違うパッションがある。前のめりに聞いてくれるところがうれしい。音楽で大切なのは聞いてくれる人がいること。自分の音楽を受け止めてくれる人たちへの感謝を忘れない。

フュージョンという、一見天草のイメージとは遠い音楽のように思われるが、友田さんの音楽は天草と深い関係があるという。作曲では自然からインスピレーションを得ることが多い。郷愁を感じさせる音楽に惹かれるとも。セカンド・アルバム「SPHERE」（2017年）の中のWhenever, Whereverは熊本地震の後につくった曲で「いつでもどこにいても」故郷のことを思っているという思いを込めた。

「音楽に救われた」と言う友田さんの場合、人生は音楽とともにある。しかし、音楽はすべての人の人生を豊かにしてくれる。どんなかたちでもいいから音楽を楽しんで欲しい思う。

### 宝塚で夢を追って ♪

天路そら（本名田中舞夏）さんは、2010年に天高に入学し、1年生を終えたところで宝塚音楽学校に移った。関東あまたか会では会友だ。宝塚卒業後は東京に拠点を移し、ミュージカル「ナビレラ」（2024年）や「昭和元禄落語心中」（2025年）などに出演した。宝塚では星組の男役で、2016年、西南戦争を舞台として桐野利明を描いた「桜華に舞え」に出演。その新人公演では川路利良（官軍側）を、本



公演では西郷隆盛の弟、小兵衛役（反乱軍側）を演じた。

それにしても、宝塚音楽学校の狭き門をどうぐり抜けたのだろうか。宝塚の受験を志したのは中学3年の時で、それまでは吹奏楽に打ち込んでいた。楽器はパーカッション。元タカラジェンヌがやっている熊本市の受験用スクールに通った。高校時代は週3～5回、授業の後、母か祖父に車で送り迎えをもらって熊本まで通った。レッスンの後も自主稽古し、帰宅は深夜になった。

宝塚に集まる少女たちは都会出身が多い。しかし、天路さんは天草で生まれ育ったことは財産だと言う。あたたかい人、おいしい食べ物、豊かな自然。モンゴルやロシアを舞台とした作品に出たときも、大自然をイメージすることができたのは天草で育ったからだと思う。宝塚に入るには強い意志と自分を信じるのが大切。天草で生まれ育ったことは決してハンディではないので、夢を追いかけてほしいと、後輩に熱いエールを送る。

### 孤独な道の先に開けた大きい世界 ♪

山田音大（ねお）さん（2022年卒・高74）は国立音楽大学演奏・創作学科チューバ専攻の4年生。昨年8月米国ミシガン州で行われたファルコーニ国際コンクールチューバ・アーティスト部門で1位を受賞した。



本渡南小の4年生の時、いろいろ吹いたらチューバで音が出た。当時は音が出るだけで楽しいと思った。チューバの音色は低音でやさしい。吹奏楽の土台を担い、メロディーを支えるやりがいのある楽器だ。天高吹奏楽部時代、JBA（日本吹奏楽指導者協会）ソロコンテストで熊本県代表、九州大会で銀賞を受賞した。音大に進んでから授業以外は1日中、夜の9時か10時まで吹いている。土日も休まない。

それでも1位に選ばれた時は「実感がなかった」という。一昨年のチェジュ国際コンクールでは一次で落ちていた。ファルコーニ国際コンクールでのファイナルの課題曲はロバート・W・スミス「チュートニック・テイルズ (Teutonic Tales)」。ドイツや北欧の神話を題材にした雄大で力強い曲だ。伴奏が（ピアノではなく）めずらしく吹奏楽だった。山田さんにとっては小中高と親しんだ吹奏楽だ。リハーサルの時から調子が合っていた。

活発な音楽が好きだ。スターウォーズの作曲家、ジョン・ウィリアムズはとくに好きだという。両親が映画好きで、子どもの頃から映画音楽を聴いて育った。高校ではみな一般の大学への進学をめざす。音大を目指すとは孤独を感じることもある。しかし、音大に行けば仲間がたくさんいて、広い世界が待っている。後輩には楽しいと思うことを好きなだけやってほしいと思う。

# 私の天高時代

楽しかった日々 がんばったあの頃  
思い出をいつまでもこの胸に



新校舎



旧校舎



丸山 菜々子  
(2024年卒・高76)

## 心から笑うことができた日々

天草高校に通っていた頃の毎日は、今思い返すと本当にあたたかく、かけがえのない時間でした。気づけば自然と集まっていた友達は、何でも話せて、一緒にいるだけで安心できる存在でした。くだらないことで大笑いしたり、悩みを打ち明け合ったり

しながら、少しずつ距離が縮まっていったことを覚えています。

部活動では、初心者のままソフトボール部に入り、最初は思うようにいかないことばかりでした。それでも仲間と声を掛け合い、失敗を重ねながら練習を続ける時間は、きつさ以上に楽しさがありました。放課後には教室に残り、分からないところをみんなで教え合いながら勉強を頑張りました。疲れているはずなのに、自然と笑顔になり、時間が過ぎるのがとても早く感じられました。特別な出来事がなくても、心から笑うことができた日々は、今でも大切な青春の思い出として心に残っています。



山下 和秀  
(1988年卒・高40)

## 生徒会と空手道クラブ

2年生のとき、「天高創立90周年」という佳き年に当たりました。それ故、様々な行事が創立90周年にちなんで行われました。なかでも体育大会は一致団結して成功させようと生徒会中心に取り組みました。どうすれば意義あるものになるのか…。時には喧嘩のような状態で議論しました。幸い天候にも恵まれ「素晴らしい体育大会であった」と好評でPTAや先生方からも褒めていただきました。また、「天高創立90周年式典」では、錚々たる方々が参列して行われ、私は緊張のなか生徒会長として謝辞を述べました。一方、悔しいことがありました。それは交通事故で先輩を亡くしてしまったことです。

私は天高が第一志望ではなく、入学してからしばらくは〇〇でしたが、友人や先生方に恵まれ徐々に何事も前向きに取り組めるようになりました!部活動では空手道部に入部。10人入部し一週間後5人になりましたが、個人形(かた)で3年生最後の九州大会優勝、インターハイベスト8の成果を上げることができました。

現在、私立目黒学院高校で教鞭をとり32年、天高での先生方のご指導・学びそして友人たちとのふれあいが活きていると天高に感謝しています!



星野 悦子  
(1966年卒・高18)

## 楽しかった天高時代

入学して音楽部に入部。講堂ステージ袖の音楽室はグランドピアノと長椅子でぎゅうぎゅう詰め!音楽の森眞一先生は小柄だが大きなバイクを乗りこなす。年間3、4回の遠征は本渡港から客船で三角港へ。2時間半の旅と電車。デッキでは誰からもなく歌声が。まるで映画の世界のよう♪2年の時、体育教室や2階に音楽教室等が完成。藤木郁夫先輩からウクレレを習いスチールギターに合わせてハワイアン♪吉田和美先輩と鍵盤遊びなど、音を楽しませていただいた。3年の時、橋本朝雄先生が新任として赴任。専門はフルート。おだてるのが上手で色々なことに挑戦させられた。(今思えば歌手見咲えつ子の土台はこの先生から始まった。)ウクレレ同好会を作って後輩たちに教えたり、若い男性教諭たちから教えて欲しいと頼まれたり。私が先生に教えるなんて、後にも先にもこれが初めて!文化祭と一緒に演奏もした♪また、3年の体育祭で紅組女子応援団を作ったこともいい思い出!赤い布でベストを縫いパトンとベレー帽を借りて来てパトンガールズに。天高始めて以来の女子応援団だと思う。卒業アルバムにはその写真が載っている。

## ADP+天草デザインプロジェクト 林田直子(1995年卒 高48)

## Amakusa Design Project

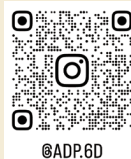
### 天草デザインプロジェクトを始めたきっかけは?

令和7年の水害の直後に天草に帰省した際、今までに見たことがない程に被害を受けた故郷をみて呆然としました。しかし、被害に遭った友人は明るく冗談を交えながら状況を話してくれて、浸水した家の片付けを近所の方々と手分けして和気藹々と進めていました。私は自然の猛威に怯むことなく受け入れ前に進む強さと明るさに逆に勇気もらい、自分も天草のために何かできないかと思い、昨年12月にこのプロジェクトを立ち上げました。

### 主な活動内容や今後の展望を聞かせてください。

寄付金付きのグッズを企画制作し、熊本空港の"MIYABIクマモトマーケット"さんと販売していただいています。集まった寄付金は天草市および上天草市の義援金に寄付し天草の復興に役立てる予定です。あとは天草出身のアーティストや企業とのコラボ商品の企画や、天草をコンセプトにしたアクセサリーのブランドを立ち上げ制作を進めている最中なので、仕上がりが楽しみです。

若い頃は窮屈に感じていた天草ですが、今は天草に生まれ育った事に感謝の気持ちでいっぱいです。関東でのデザインの仕事もしながらですが、外に出てみて感じる天草の価値をより多くの方々に広める活動をしていきたいです。



@ADP.60



# 同窓会・同期会・懇親会



2025年11月1日 18回卒同期会（関東+中京）磯丸水産赤坂見附店にて

## 令和7年度大同窓会

函南会大同窓会が11月15日（土）、ホテルアレグリアガーデンズ天草で開催されました。池田和貴熊本県議会議員（高34）、岩寄毅天草高校校長（高38）、池田正三郎函南会会長（高21）を始め181名が参加しました。

私は函南会本部、各支部の同窓会に参加したことはなく、今回が最初でした。来賓の方々とは面識もあり懇談することができましたが、やはり緊張の連続でした。

学年幹事会がしっかりと活動され、ホテルでの車の誘導から受付、案内も手際よく、式次第も同様に函南会大同窓会の重厚さにも感動しました。

「アフリカ人の嫁になりたかった私。。。」の31回生坂下さんの講演も興味深いお話でした。料理もビュッフェ形式で内容も充実しており、味も良好でした。

参加者16回生の先輩方も少なく、また42回生以降も数名で、幹事学年31回生・36回生でほぼ半数の状況です。かなり偏在しております。会員数、参加者数の減少傾向はまったく改善されていません。

関東あまたか会でも学年幹事の方に積極的に呼びかけて、やはり横の繋がりを大切にしたいと思います。

平石 水利（1964年卒・高16）

## 「不知火会」で天草を語り合う

唐津 孝（1957年卒・高9）



「不知火会」は平成10年（1998年）に3人から始まった天草人の飲み会です。3人とは梶原嘉辰さん（天中）、西田九仁夫さん（高6）、原田珂寿治さん（熊本工業）です。梶原さんは退職後天草に帰り、島内をスケッチして周って『天草ぶらりスケッチ点描I、II』を出版しました。私が山下公輔さん（高6）に連れられて不知火会に参加したのは17年以上前のこと。当時は村上正衛さん（天中・海軍兵学校）、助村隆典さん（予科練）、原田芳夫さん（天中）がいました。原田さんの父上は佐伊津の飛行場で水上飛行機を作るために東京から転勤して来られたお役人で、本人は天草中学など大丈夫な学校かと心配だったのですが、来て見て立派なのに安心した、などという当時の話を聞くことができました。こうして戦中から戦後にかけての時代の話で大いに盛り上がりました。

今の「不知火会」は西川軍一さん（高10）、北内寿夫さん（高14）、花里安明さん（高20）、さらに巴水会の小島信雄さんらが参加し、毎月第2土曜の午後、下浦出身の方が経営する西武線・練馬高野台駅近くの居酒屋「もものき」に集まっています。飲んで歌って天草について語り合います。以前は山下公輔さんが天高校歌で会を締めくくっていましたが、山下さんが亡くなられてから校歌が出なくなったのがさみしいです。



もものきにて

## 18回生同期会のご報告

去る11月1日（土）天高（18回、昭和41年卒業生）関東地区の同期会（懇親会）を、港区赤坂の居酒屋で開催しました。関東地区には同級生が45名程いるようですが（令和7年12月3日時点）、10名予定のところ、結局参加者は9名でした。

それぞれの近況をお話してもらいました。黒川君は昨年末で経営から退き、増井君はまだ現役で頑張っているとのこと。その他の7名は第一線から退いているようです。みなさん元気そうで、勇気付けられました。こうして同級生と会うとなんとか懐かしく、若返った気になりますね。これからどんどん歳をとっていくこととなりますが、これからは傘寿（80歳）の会など、会える機会を増やしていければと良いなと思うこの頃です。

そして、参加者全員とラインの交換をし、グループラインを設定しました。又、及ばずながら力になればと思い、平成24年7月15日作成の卒業生名簿から、関東地区在住の卒業生のみを抜粋、転記後、星野悦子さんからの情報による修正を加えて、名簿を作成しました。今後これをアップデートしていければと思います。

今年10月4日（日）に傘寿同期会を東京で開催します。

高橋 榮作（1966年卒・高18）



## たか菜を育て、漬ける

平石 水利（1964年卒・高16）

念願の家庭菜園を始めて早や10年余。八王子市民農園の約3坪を借り、農作業の仲間入りを果たしました。実家で野菜等を作っていましたが、収穫を手伝う程度でした。市民農園のお隣りの方々の優しいアドバイスに耳を傾け、またインターネットにも助けられました。播種、育苗、苗移植、施肥、土寄せ、収穫時期等を学習し、経験を積みました。ようやく家族やお隣さんに喜ばれるようになりました。手狭に感じていた3坪に加え、ラッキーにも農家さんから30坪余の畑を無料で貸してもらうことができました。広大な畑に多種多様の野菜を栽培する多忙な日々です。

秋蒔き用の種を物色していた時、「三池たか菜」が目にとまりました。九州特産のたか菜が関東で成育するか不安でした。晩秋に蒔いた「たか菜」は100%発芽し、懸念はすぐに解消されました。それまでの経験をフル活用して暖かくなった4月には立派な「たか菜」がなりました。

収穫した後天日干しにすること3日で漬け込みです。塩、米ぬか、赤唐がらは目分量でトライ。5日程で「水」が上がり、そこで「水」を捨て、全部取り出し、塩を加え2度漬けにします。3週間くらいすると食べ頃です。

今年は9月に種蒔きし、暖かい日和に恵まれて11月には立派に成育したので、直ぐ漬け込みました。2度漬けの際、天草から取り寄せた「たか菜漬の素」を混ぜたら黄色く鮮やかな艶が出て立派に仕上がりました。

実は12月に開催された中学校の同窓会に賞味してもらったかったです。同窓会当日プレゼンしました。すると翌日、ラインで絶品の言葉をいただきました。「塩加減、風味、浸り具合満点」「久しぶりにたか菜のおいしさに出会った」など。

関東あまたか会の物品販売でも「たか菜漬」は好評で売り切れ御免です。温かい白飯に青くさい新漬けは格別です。天草の人たちにとって「たか菜漬」はソウルフードかなと思います。これからも「たか菜」の栽培を続け、「たか菜」に加工熟成して多くの方に賞味していただきたいと思っています。



「三池たか菜」は関東の畑でも立派に育った

## 天草高校便り

### 体育大会を終えて

福田 みそら（天高2年生）



4月26日（土）に体育大会が行われました。少し天気が危ぶまれていましたが、当日は晴れて、体育大会日和となりました。体育大会は伝統の天高体操から始まり、マスゲーム、学年ごとの学級対抗リレーや竹取物語などの競技、一番の華である応援団と、充実した行事となり、私たちにとって大事な青春の1ページとなりました。自分たちが出場するときは全力で競技を行い、自分たちが出ない競技のときは全力で応援し、とても楽しく、白熱した体育大会になりました。その盛り上がりした後、プログラム最後の人文字と応援団演舞はとても緊張感があり、厳かな雰囲気になりました。切り替えが早く、メリハリをつけてすぐに雰囲気を作るのでできる天高生はやはりかっこいいと感じました。私自身はマスゲームリーダーとして、練習時から人に一つのことを教えることの大変さ、仲間と協力することの大切さ、すべてを全力でやりきった後の達成感を体験することができ、本番では自分の精一杯のパフォーマンスができたため、1年生の時よりも楽しく、有意義な体育大会となりました。

来年度は、私たちは3年生となり、受験前に行う最後の大きな行事となります。また、130周年を迎える節目の年であり、それを祝うスタートを切る大事な行事でもあります。来年度の体育大会も生徒だけでなく、観客の皆さんも楽しめるような行事にできるように仲間と協力していこうと思います。



# 天草便り

## 富岡城お城まつり

西田勝年(1960年卒・高12)



の富岡城物産展も盛況でした。

富岡城は、島原天草一揆の舞台になった歴史ある城です。観光で各地から多くの方々が訪れています。富岡城から見下ろす眺望は絶景です。

富岡城のふもと出身、故松尾前会長の活躍をあらためて思い、ご冥福を祈りました。

写真提供・苓北町役場



10月26日苓北町制施行70周年記念「第9回富岡城お城まつり」に行きました。この祭りは、地域資源の発信と地域活性化、交流人口の拡大、経済効果の獲得を目的に開催されています。お城の近くの特設ステージでは、郷土芸能や演舞などの17団体の中に、天草高校吹奏楽部が出演しました。特に、演奏は観客の気持ちと一体となり、アンコールの拍手がなりやみませんでした。

歴史と自然を肌で感じられる体験イベントとして、①富岡城と富岡西海岸ウォーキング②高校の実習船熊本丸に乗船して近海のクルージング③パーロン体験会が開催されました。会場内

| ご理解・ご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます           |       |    |       |    |       |    |         |    |       |    |       |    |       |    |       |    |        |
|---------------------------------------|-------|----|-------|----|-------|----|---------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|--------|
| 令和7年度(2025年度)年会費を納入された会員の皆様(12月31日現在) |       |    |       |    |       |    |         |    |       |    |       |    |       |    |       |    |        |
| 天中                                    | 原田芳矢  | 9  | 唐津 孝  | 12 | 山並義孝  | 15 | 土佐幸子    | 17 | 口元 博  | 19 | 坂川 武  | 21 | 佐藤義博  | 23 | 田中光一  | 27 | 吉野睦子   |
| 定12                                   | 藤田和治  | 9  | 藤枝純子  | 12 | 大塚朝子  | 15 | 下川洋子    | 17 | 金子敬美  | 19 | 大坪里子  | 21 | 巽 正喜  | 23 | 岡部養一  | 27 | 野中昭信   |
| 定14                                   | 大塚博幸  | 9  | 秋田健二  | 12 | 西田勝年  | 15 | 原田喜久雄   | 17 | 林田秋由  | 19 | 小橋園子  | 21 | 岩下好夫  | 24 | 木村さよ子 | 28 | 江頭真喜子  |
| 2                                     | 近藤睦枝  | 9  | 住吉幹夫  | 12 | 金子なほみ | 15 | 山本忠義    | 17 | 宮本忠彦  | 19 | 須崎きみ子 | 21 | 馬場信子  | 24 | 菅野伸子  | 28 | 田中孝尚   |
| 4                                     | 堀 青子  | 9  | 榊嶋章生  | 12 | 三俣香代子 | 15 | 森下幸造    | 17 | 志茂豊子  | 19 | 植村嗣久  | 21 | 川上知子  | 24 | 山下庄治  | 29 | 木谷祐一   |
| 5                                     | 玉田元康  | 9  | 宮崎光伸  | 13 | 子原敬子  | 15 | 吉永晴子    | 17 | 山口泰教  | 19 | 原田悠里  | 21 | 田原 昭  | 24 | 三宅盛夫  | 29 | 田中優子   |
| 6                                     | 大和賢造  | 10 | 奈良崎應彦 | 13 | 武田 縣  | 15 | 前田非登美   | 17 | 津田祐一  | 20 | 福田いく子 | 21 | 尾上 充  | 25 | 吉村いつみ | 29 | 榊原保夫   |
| 6                                     | 小島庄太郎 | 10 | 久野栄子  | 13 | 石井裕二  | 15 | 原田喜久雄   | 18 | 星野悦子  | 20 | 橋川順一  | 21 | 土井一美  | 25 | 小松健二  | 30 | 金子健太郎  |
| 6                                     | 小畑幸保  | 10 | 角田啓爾  | 13 | 板垣嘉朗  | 15 | 浦郷昌代    | 18 | 赤尾美恵子 | 20 | 宮崎幸一  | 21 | 蔵田博文  | 25 | 横山誠二  | 31 | 沼田章子   |
| 6                                     | 光崎親一  | 10 | 平田俊清  | 13 | 土黒 實  | 15 | 有瀬浩一    | 18 | 齋藤 都  | 20 | 赤石修一  | 21 | 山下正路  | 25 | 浦田信雄  | 31 | 緒方恵一郎  |
| 6                                     | 村上賢一  | 10 | 木村哲典  | 13 | 宮崎勝洋  | 16 | 松尾和幸    | 18 | 松本恵美子 | 20 | 弦巻孝江  | 21 | 伊藤日出喜 | 25 | 鶴田健治  | 32 | 小森智美   |
| 6                                     | 西比紗子  | 10 | 本多勝則  | 14 | 原田純吾  | 16 | 倉田善造    | 18 | 津田志保子 | 20 | 上 元範  | 21 | 長島從道  | 25 | 野口金徳  | 32 | 松岡睦士   |
| 7                                     | 松尾 尚  | 10 | 小林推邦  | 14 | 大野正光  | 16 | 平石水利    | 18 | 平元詢二  | 20 | 原田 淨  | 21 | 森田聖憲  | 25 | 松下喜美子 | 32 | 小野寺智恵  |
| 7                                     | 田崎弘吉  | 10 | 西川軍一  | 14 | 原田幸徳  | 16 | 大塚延子    | 19 | 佐藤節代  | 20 | 福本正博  | 22 | 奈良崎孝桂 | 25 | 金子尚弘  | 33 | 金子みゆき  |
| 7                                     | 本多敏朗  | 10 | 濱中イチヲ | 14 | 森田紘司  | 16 | 稲葉由起子   | 19 | 荒木統司  | 20 | 宮本東志美 | 22 | 原田眞一  | 25 | 竹尾孝幸  | 34 | 甲斐田健吾  |
| 7                                     | 川田博昭  | 10 | 山口桂子  | 14 | 富永茂和  | 16 | 小野寺正和   | 19 | 宮崎秀隆  | 20 | 及川立子  | 22 | 坂本尚登  | 25 | 今村恵子  | 35 | 舎川恵子   |
| 7                                     | 森本雅生  | 11 | 大塚徳満  | 14 | 北内寿夫  | 16 | 永野和輝    | 19 | 岡 衛志  | 20 | 木原巡一  | 22 | 有馬 衛  | 25 | 帯部力男  | 40 | 山下秀和   |
| 7                                     | 岩崎良昭  | 11 | 清原桂典  | 14 | 福島利男  | 16 | 松岡一行    | 19 | 田中廣子  | 20 | 池田昭樹  | 22 | 須崎律代  | 25 | 武部 茂  | 41 | 唐鎌美佐   |
| 8                                     | 富山訓全  | 11 | 村上三保子 | 14 | 松岡秀枝  | 16 | 伊東(定)伸子 | 19 | 山下純二  | 20 | 福田いく子 | 23 | 濱崎 守  | 25 | 滝口かおる | 42 | 鳥羽瀬宗一郎 |
| 8                                     | 有馬 巖  | 11 | 長濱敏明  | 14 | 一之瀬紘子 | 16 | 伊藤常和    | 19 | 山下道子  | 21 | 佐々木容子 | 23 | 高橋 篤  | 25 | 松下喜美子 | 46 | 山田知子   |
| 8                                     | 三澤哲也  | 11 | 山下 交  | 14 | 出崎恵子  | 17 | 明瀬 健    | 19 | 山田敏房  | 21 | 川上文明  | 23 | 榊原俊一  | 25 | 田川信也  | 46 | 登本洋子   |
| 9                                     | 梅本 進  | 11 | 長谷川亮祐 | 14 | 土井光廣  | 17 | 中河原昭夫   | 19 | 山田貞子  | 21 | 川原照文  | 23 | 前屋敷重子 | 26 | 金子清則  | 65 | 柿久昌範   |
| 9                                     | 渡辺和則  | 11 | 田中悦子  | 15 | 小林忠子  | 17 | 長濱栄喜    | 19 | 植村嗣久  | 21 | 益田志郎  | 23 | 清水真知子 | 26 | 中村まつ子 |    |        |
| 9                                     | 石井良空  | 12 | 岩崎定義  | 15 | 谷山弘行  | 17 | 松本貢二    | 19 | 佐藤 純  | 21 | 野島雄二  | 23 | 糸野良二  | 27 | 松野明久  |    |        |
| 9                                     | 三宅庸定  | 12 | 前田栄一  | 15 | 松尾弘美  | 17 | 角岡セツ子   | 19 | 榎原いそ子 | 21 | 山中麗子  | 23 | 佐藤正明  | 27 | 小林嘉和  |    |        |
| 9                                     | 岡田松市  | 12 | 佐藤文憲  | 15 | 近藤賢一  | 17 | 松下庄治    | 19 | 巽 憲雄  | 21 | 藤本愛人  | 23 | 若松敏弘  | 27 | 桑原洋一  |    |        |
| 9                                     | 山田照夫  | 12 | 山田 清  | 15 | 原田稔也  | 17 | 斎藤佐智子   | 19 | 山田貞子  | 21 | 菅澤真弓  | 23 | 倉田和利  | 27 | 岡崎松志  |    |        |
| 9                                     | 小町知子  | 12 | 尾上カツコ | 15 | 澤田健次郎 | 17 | 宮崎弘通    | 19 | 山田敏房  | 21 | 古山隆樹  | 23 | 田原真記子 | 27 | 田尻正美  |    |        |
| 令和7年度年会費に加えて、ご寄附を賜りました会員・会友の皆様        |       |    |       |    |       |    |         |    |       |    |       |    |       |    |       |    |        |
| 天中                                    | 原田芳夫  | 9  | 宮崎光伸  | 13 | 石井裕二  | 16 | 大塚延子    | 19 | 宮崎秀隆  | 20 | 池田照樹  | 23 | 田原真記子 | 27 | 田尻正美  | 32 | 小野寺智恵  |
| 定12                                   | 藤田和治  | 10 | 西川軍一  | 13 | 板垣嘉朗  | 16 | 倉田善造    | 19 | 山下純二  | 20 | 福田いく子 | 24 | 三宅盛夫  | 27 | 吉野睦子  | 34 | 甲斐田健吾  |
| 会友                                    | 原田 登  | 11 | 清原桂典  | 14 | 森田紘司  | 17 | 中河原昭夫   | 19 | 山田敏房  | 21 | 佐藤義博  | 24 | 木村さよ子 | 27 | 野中昭信  | 40 | 山下和秀   |
| 2                                     | 近藤睦枝  | 11 | 田中悦子  | 14 | 原田幸徳  | 17 | 長濱栄喜    | 19 | 山田貞子  | 21 | 田原 昭  | 25 | 野口金徳  | 27 | 松野明久  | 46 | 登本洋子   |
| 6                                     | 小畑幸保  | 11 | 大塚徳満  | 15 | 山本忠義  | 17 | 松本貢二    | 19 | 大坪里子  | 22 | 原田眞一  | 25 | 金子尚弘  | 28 | 江頭真喜子 |    |        |
| 6                                     | 光崎親一  | 12 | 岩崎定義  | 15 | 松尾弘美  | 17 | 角岡セツ子   | 19 | 坂川 武  | 22 | 須崎律代  | 25 | 今村恵子  | 28 | 平元詢二  |    |        |
| 7                                     | 松尾 尚  | 12 | 山田 清  | 15 | 谷山弘行  | 17 | 明瀬 健    | 19 | 植村嗣久  | 23 | 濱崎 守  | 25 | 帯部力男  | 29 | 田中優子  |    |        |
| 7                                     | 川田博昭  | 12 | 西田勝年  | 16 | 稲葉由起子 | 17 | 宮崎弘通    | 19 | 原田悠里  | 23 | 清水真知子 | 25 | 吉村いつみ | 30 | 金子健太郎 |    |        |
| 8                                     | 富山訓全  | 12 | 三俣香代子 | 16 | 松岡一行  | 17 | 山口泰教    | 20 | 宮崎幸一  | 23 | 糸野良二  | 27 | 小林嘉和  | 31 | 沼田章子  |    |        |
| 9                                     | 藤枝純子  | 13 | 武田 縣  | 16 | 平石水利  | 18 | 星野悦子    | 20 | 上 元範  | 23 | 倉田和利  | 27 | 桑原洋一  | 32 | 松岡睦士  |    |        |
| 令和7年度中に令和8年度(2026年度)年会費を納入された会員の皆様    |       |    |       |    |       |    |         |    |       |    |       |    |       |    |       |    |        |
| 12                                    | 三俣香代子 | 14 | 原田幸徳  | 17 | 明瀬 健  | 17 | 林田秋由    | 19 | 原田悠里  | 19 | 大坪里子  | 20 | 原田 淨  | 20 | 福田いく子 | 22 | 須崎律代   |
| 令和7年度中に令和9年度(2027年度)年会費を納入された会員の皆様    |       |    |       |    |       |    |         |    |       |    |       |    |       |    |       |    |        |
| 12                                    | 三俣香代子 | 19 | 原田悠里  | 22 | 須崎律代  |    |         |    |       |    |       |    |       |    |       |    |        |

お名前記載漏れや間違いがありましたら、お手数をお掛けしますが事務局までお知らせください。

| 令和7年度会計報告           |           |         |           |
|---------------------|-----------|---------|-----------|
| 令和7年1月1日～令和7年12月31日 |           |         |           |
| 収入                  |           | 支出      |           |
| 項目                  | 金額（円）     | 項目      | 金額（円）     |
| 前年度繰越金              | 2,940,796 | 総会・懇親会費 | 697,267   |
| R7年度年会費             | 476,000   | 通信費     | 188,447   |
| R8年度年会費             | 18,000    | 印刷費     | 227,909   |
| R9年度年会費             | 6,000     | 交通費     | 168,290   |
| 広告料                 | 177,000   | 交際費     | 64,200    |
| 寄附金                 | 272,612   | 手数料     | 39,366    |
| 懇親会費                | 500,000   | 輸送費     | 175,479   |
| 祝金                  | 60,000    | 消耗品費    | 14,844    |
| 助成金                 | 80,000    | 会議費     | 56,169    |
| 物販収入                | 22,208    | 宿泊費     | 31,350    |
| 小計                  | 1,611,820 | 小計      | 1,663,321 |
|                     |           | 次年度繰越金  | 2,889,295 |
| 合計                  | 4,552,616 | 合計      | 4,552,616 |

| 令和8年度予算             |           |         |           |
|---------------------|-----------|---------|-----------|
| 令和8年1月1日～令和8年12月31日 |           |         |           |
| 収入                  |           | 支出      |           |
| 項目                  | 金額（円）     | 項目      | 金額（円）     |
| 前年度繰越金              | 2,889,295 | 総会・懇親会費 | 700,000   |
| R8年度年会費             | 460,000   | 通信費     | 180,000   |
| 広告料                 | 120,000   | 印刷費     | 220,000   |
| 寄附金                 | 260,000   | 交通費     | 150,000   |
| 懇親会費                | 500,000   | 交際費     | 40,000    |
| 祝金                  | 60,000    | 手数料     | 40,000    |
| 助成金                 | 80,000    | 輸送費     | 180,000   |
| 物販収入                | 20,000    | 消耗品費    | 10,000    |
|                     |           | 宿泊費     | 30,000    |
| 小計                  | 1,500,000 | 小計      | 1,550,000 |
|                     |           | 次年度繰越金  | 2,839,295 |
| 合計                  | 4,389,295 | 合計      | 4,389,295 |

### 令和8年度（2026年度） 総会・友好の集いのご案内

年に1度の総会・友好の集いにはさまざまな世代の方が参加されます。知り合いがいない、という方でもまったく心配はご無用です。総会では母校の先生を来賓に迎え、最近の天高の事情を伺います。また、友好の集いでは全員がステージで自己紹介し、牛深ハイヤ踊りで体を動かし、「ふるさと」や校歌を歌います。好評の天草物産販売は大賑わいです。

日時：10月31日（土）

12:00-15:00（11:30受付開始）

場所：スクワール麴町（JR四ツ谷駅 麴町口目の前）

3階「錦華」

★詳細は会報51号（8月末発送）にてお知らせします。

問合せは事務局（松野明久）まで：

☎090-3272-4383（LINEもやっています）

Email: akimatsuno@mac.com

### 訃報のお知らせ

昨年8月から12月にかけてご逝去のご連絡を受けた方をお知らせします。名前の（ ）は旧姓名。右の（ ）は逝去年月。

|      |            |           |
|------|------------|-----------|
| 定時12 | 大浦（兼）サトエ様  | （令和7年9月）  |
| 高1   | 堀田 倫男様     | （平成27年）   |
| 高3   | 鶴田 日出夫様    | （令和6年12月） |
| 高3   | 岩崎 與治夫様    | （令和6年7月）  |
| 高4   | 五島 一吉様     | （令和7年5月）  |
| 高7   | 標（山中）美智子様  | （令和6年11月） |
| 高8   | 森下 俊秀様     | （令和6年9月）  |
| 高8   | 石井 雅晴（雅治）様 | （令和4年2月）  |
| 高9   | 中嶋 正毅様     | （令和7年8月）  |
| 高10  | 浜田 唱様      | （令和6年）    |
| 高10  | 鶴田 正明様     | （令和6年12月） |
| 高10  | 毛利（池添）嘉子様  | （令和6年11月） |
| 高11  | 田中 秀憲様     | （令和6年12月） |
| 高13  | 内尾（小谷）亜津子様 | （令和7年5月）  |
| 高15  | 山本 忠義様     | （令和7年9月）  |
| 高18  | 中平（丸岡）せい子様 | （令和7年9月）  |

### 令和8年度（2026年度）会費払い込みのお願い

関東あまたか会は会員のみさんの会費及び寄附によって運営されています。会費（年間2000円）及び寄附金の払い込みは、同封の赤いゆうちょ銀行払込取扱票（振込手数料は会で負担）をご使用下さい。振込取扱票には住所・氏名、卒回（または卒業年）をお書き下さい。

また、ゆうちょ銀行やその他の銀行口座からATMやインターネットを通じてのお振り込みも可能です。その場合は、以下の情報をご指定下さい。

★今年度・来年度分をすでにお払い済みの方は今回振り込まれる必要はありません。

#### 1. ゆうちょ銀行から振り込む場合

- ・口座記号番号：00180-6-487424
- ・口座名義：関東あまたか会

#### 2. 他の銀行から振り込む場合

- ・銀行名：ゆうちょ銀行
- ・店名（店番）：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）
- ・預金種目：当座
- ・口座番号：0487424
- ・口座名義：関東あまたか会

### 編集後記

50号の節目となる今号から横書き2段組にしました。編集用のソフトは横書きが便利であり、編集の効率化をはかるためです。また2段組にしたことで写真を大きく配置できるようになりました。

今号は特集を組みました。「音楽と生きる～関東あまたか会音楽家列伝」。活躍する同窓生が多く、予定より記事が膨らみました。それでもインタビューのごく一部しか書けませんでした。また、記事が膨らみ、広告協賛をご依頼できませんでした。

9月に当会ホームページが突然アクセス不能になり、ご迷惑・ご心配をおかけしました。松尾会長からの引継ぎがうまくできていなかったのが原因ですが、この会報が届くころには回復している見込みです。「関東あまたか会」で検索してみてください。

寒い日が続きます。陽光まばゆい春の日に桜吹雪の中を歩く—そんな日を夢に描きながら、温かくして過ごしましょう。（松野）